

# 学区内の少子高齢化の状況

## ① 服織学区は80歳以上年齢

2000年に472人 2005年に612人

⇒2015年は1,213人 **2.6倍増**

**15人に1人は、80歳以上**

## ② 15歳未満の人口は、15%減

## ③ 要介護者の大幅増加

## ④ 担い手不足

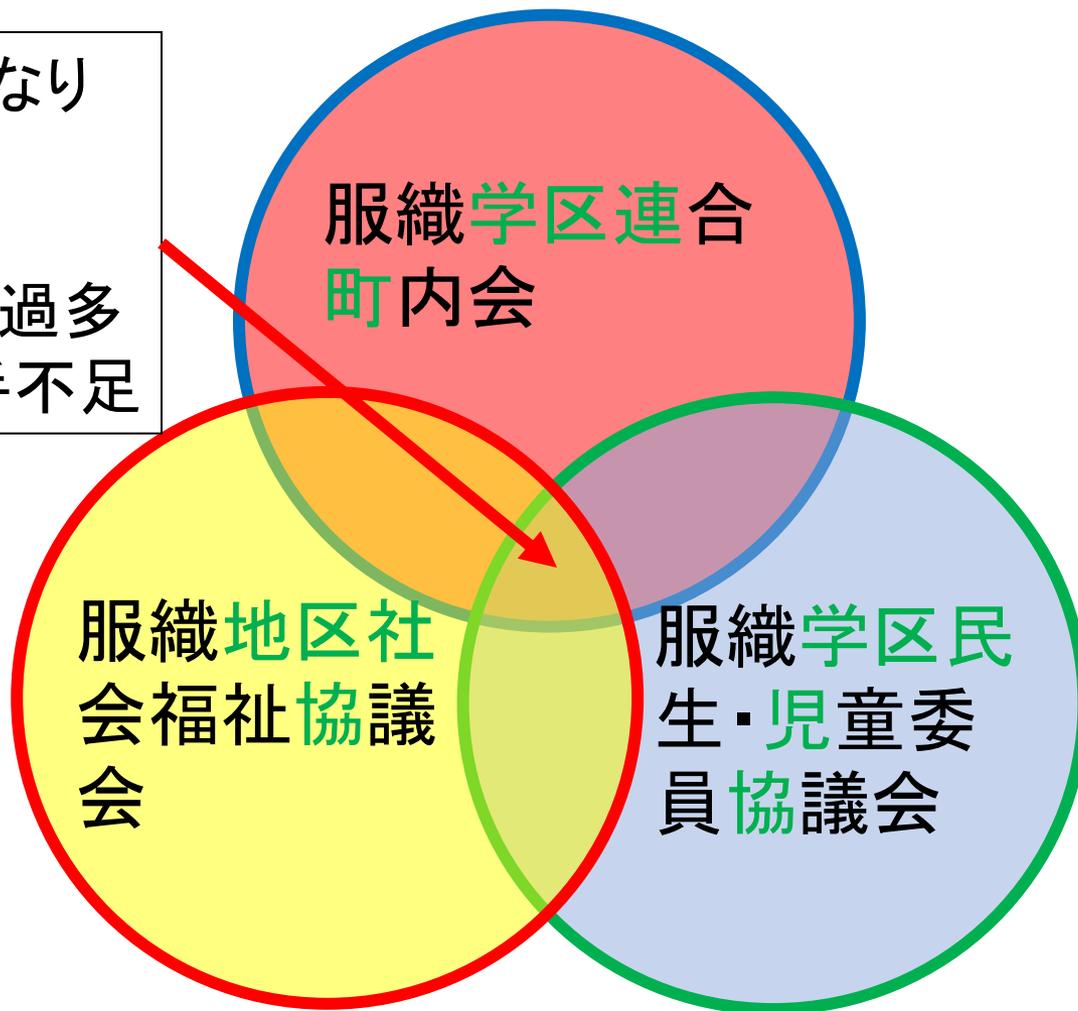
## ⑤ 状況の長期継続

### 地域住民の意識の変化

超高齢化地域を見据え、**助け合いの会結成**の動き  
しかし、**誰かがやってくれたら、手伝うよ**という段階

# 服織学区の住民を支える地域福祉の組織

役員等の重なり  
合い・兼務  
⇒  
多忙・業務過多  
担い手不足



服織地域包括支援センター(日常生活圏域 > 服織小学校区)

# 先行事例 服織柿田町「よつば会」の実績

助け合いボランティアの登録 **260世帯中61人**  
できることを、できる人が、できる時に  
ちょっとした困りごとを助け合う活動の例



掃除



ごみ出し



洗濯



布団干し



買い物



薬取り



あなたの♡で四つ葉になる！ 互助と近助



話し相手・傾聴



散歩の付き添い



声かけ活動



草取り



簡単な修理



水やり

# 先行事例 服織柿田町「よつば会」の実績 少し心配な点（インタビュー結果）

- ① 「拠点が無い！」  
町内会の集会所がなく、  
役員の持っている空き家を無償提供
- ② 「活動資金が無い！」  
町内会費から何とか捻出
- ③ 「静岡市からの補助金が何も無い！」（怒）  
町内会の業務は減らない、人も金も出さない行政
- ④ 次世代の人材養成



他の町内会でも、同様の懸念が踏み出せない要因に

地域住民のやる気を形にする 提案1

助け合いの会の取組について  
大自慢大会を開催し、  
互いに学び合おう

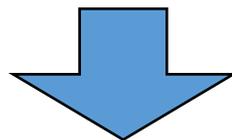
地域住民のやる気を形にする 提案2

助け合いの会を  
助ける事務局をつくろう

# 助け合いの会を支援する仕組み

互助・近助

各町内単位の助け合いの会



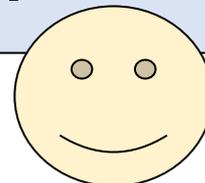
服織地区社協  
助け合い推進部

助け合いの会を**助ける事務局**

(複数町内会で合同)

- ①資料作成 ②経理の補助
- ③ニーズとのマッチング
- ④個人情報管理 etc.

直接のお世話は苦手だけど裏方ならできるよ



# 5年後には、服織学区全町内会に 「助け合いの会」が結成されている

助け合いの会の結成促進(2町内会から12町内会)

助け合いの会の活動の深まり

新たなニーズへの対応

自慢大会  
の開催

服織学区全  
町内会に  
「助け合い  
の会」結成

要支援者の  
把握・個別  
ニーズへの  
対応

# 服織学区の将来構想(10年後)

拠点・居場所づくり

地域住民自身が地域の課題を把握する

町内会・民生委員事務所構想

地域の担い手の負担軽減  
市民参画の可能性

福祉資源の総働

社会福祉法人の地域公益事業必須化への期待

地域包括ケアの流れ ⇒

高齢者介護・障害者自立支援・子育て支援・生活困窮者の支援